

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

		種目 技術・家庭（家庭分野）（1/1枚目）	
		技術・家庭部会 部長（金野 寛）	
発行者名	東京書籍	教育図書	開隆堂
調査の観点			
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮	(1)・1年生が取り組める基礎編から、自立に向けて取り組みだし、2、3年生へと学習内容に広がりもてるように実習例が取り上げてあり、3年間使用を考えた内容である。 (2)・写真が多く、各ページにQandAがあり、生徒が興味をもてる内容である。 ・2章「住生活と自立」は、日本の災害の具体例や地震対策が掲載されていて、興味・関心を引き出す工夫がされている。 ・「プロに聞く」が要所に配置されている。 ・全体的に親しみやすい絵や写真が多い。 (3)・基礎技能が具体的にまとめられており、生徒の学力に見合っている。	(1)・資料が豊富、盛りだくさんの内容量である。 ・2章「わたしたちの衣生活」は、基礎に重点を置いている。 ・実習例が限定されている。 (2)・1章「家族と家庭生活」は、家庭生活と家族との関係を考えさせることができるページ設けている。 ・導入の自立度チェックやクイズは、日常生活とリンクした答えやすい内容になっていて、興味・関心を引き出す工夫がされている。 (3)・基礎技能が具体的にまとめられており、生徒の学力に見合っている。	(1)・基礎をおさえた上で、実験を取り入れており、発達段階に合わせた内容である。 (2)・1章「わたしたちの家族・家庭と地域」が6ページで他の章に比べ少ない。 ・ページ端に細かい写真があるが、関心を引く反面、授業と関係のないところに関心がいってしまう可能性がある。 ・「参考」に、専門家や有名人の話、今話題の話を記載し、興味・関心を引き出す工夫がされている。 ・「調べてみよう・考えてみよう」は、イラストや写真により関心を引き出す配慮がされている。 (3)基礎技能が具体的にまとめられており、生徒の学力に見合っている。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮	(1)・基礎技能が領域ごとにおさえてあり、課題を確認しやすい構成である。 ・学習のまとめで、関心・意欲と知識・理解を確認することができる。 ・配列は、「日常の食事と調理の基礎」→「快適な衣服と住まい」→「家庭生活と家族」→「身近な消費生活と環境」となっており、最後に選択として「生活の課題と実践」が配置されている。 (2)・食物の学習に興味や関心が高い生徒に合わせ、1章に「私たちの食生活」を配列している。 ・食物・被服ともに短時間で作れる作品を掲載しており、発達段階に配慮した分量である。 (3)・「基礎技能」という項目をたてて、基本事項をまとめている。 ・右利きと左利きとの両方の表記がある。(P.53、124) (4)・8品ずつ実習例があり選択しやすく、組み合わせる料理の例が示され、発展教材への配慮がされており、各中学校の実習時間に応じて活用しやすい工夫がされている。	(1)・「発展」「実習」「選択」の項目が明記されている。 ・学習のふり返りで関心・意欲と知識・理解を確認することができる。 ・「家庭生活と家族」→「日常の食事と調理の基礎」→「快適な衣服と住まい」→「身近な消費生活と環境」となっている。 (2)・イラストの分量が多い。 (3)・口絵の「年中行事とわたしたちの暮らし、人生の祝い事」は、内容の配列を工夫している。 ・主菜・副菜で料理をまとめており、献立に活用しやすい配慮がされている。 ・被服製作の作品は簡単な内容のものが多く、短時間で扱える。 ・被服実習は、手順を追って図や絵を使って表記されている。 ・調理や裁縫用具の一覧がある。 ・住居の題材に展開図例が充実している。 (4)・各章に「発展」があり、内容を掘り下げて記載されている。	(1)・「探究」や「発展」の項目は単元の中に取り上げられていて、また、「探究」や「発展」と明記されているので、取り組みやすい。 ・学習のまとめは、関心意欲を確認することができる。 ・「家庭生活と家族」→「日常の食事と調理の基礎」→「快適な衣服と住まい」→「身近な消費生活と環境」となっている。 (2)・P.134～135の参考「おせちと雑煮」の探究「和食」は、詳細にまとまっており、食文化の理解を深められる。 (3)・P.72～P.74では食品と栄養素の関係が理解しやすくまとめられている。 ・生鮮食品や加工食品の表示が具体的で、基本的な事項の内容が明確である。 ・調理のポイントと付け合わせの内容が献立学習とともに学べる内容である。 ・食材一種で様々な切り方を学習できる内容があり、授業で実践しやすい内容である。 (4)・「発展」は、P.98「食卓マナー」やP.99「おいしさ」、P.140「災害にあった時の食事?」、P.271「伝統文化」などは詳しく説明がされており、取り組みやすい内容となっている。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ	(1)・巻頭に「この教科書で学ぶ皆さんへ」で、教科書の構成やマークの意味を説明している。 (2)・調理実習の実習例は料理手順や写真が見やすく、丁寧に説明されている。 ・ミシンの解説ページが5ページあり、図が大きい。 ・P82～83の「弁当作りに挑戦しよう」は、料理の組み合わせの色合いや写真の色調が鮮明である。	(1)・調理時間が明記されており、計画が立てやすい表記である。 ・P.216～217の「巾着袋の作り方」は、丁寧な記載である。 ・口絵9の暮らしの中のマークは、授業で使いやすい。 ・住まいの危険が分かりやすく説明されている。 (2)・キャラクターの手書き吹き出しに課題の発展や解決のヒントとなる一言が書かれている。	(1)・学習内容ごとに「学習目標」が見やすく掲載されており、学習の目当てが明確である。 ・消費者からの視点からの表現となっており、消費者としての意識をもたせることができる表現である。 ・「探究」や「発展」という表示が明確である。 (2)P.142～143の「食品成分表」は、数字が大きく、緑黄色野菜に印が付いているので読み取りやすい。 ・P.75～77の「実物の食品のおよその重さを知ろう」は、種類が多く記載されている。
4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮	(1)・各領域で学ぶことがまとめられており、小学校での学習を振り返りながら今後のことが見渡せるような配慮となっている。 ・P.88、269など他教科(社会、道徳)や小学校との内容とのつながりが表記されている。 (2)・「ポイント」は、そのポイントを押さえたかどうかで課題が発見でき、解決に向けて効果的である。 ・「振り返り」があり、学習についてポイントを見直すことができ、課題に向かって取り組めるような配慮となっている。 ・無料のデジタルコンテンツを使用すると実技見本やシミュレーションが使用でき、情報通信機器やパソコンに慣れている生徒の興味・関心・意欲を引き出す展開となっている。 (3)・横幅A4サイズの大きさと、文字が大きく、白を基調とした余白がしっかりとあるので、すっきりして読みやすい。 ・背面から章分けがわかるだけでなく、実習例もみつけやすい。 (4)・食文化や郷土料理・各地の住まい方や気候風土などが地域性への配慮がうかがえる内容である。 ・地域が広く中学校数が多い八王子でも、衣・食・住の学習に地域差なく取り扱える。	(1)・章ごとに色分けの工夫があり、頁を開きやすい。 (2)・各領域で「学習の振り返り」があり、問題集のように構成されており、すべて自分の言葉で記入する形式である。 ・「考えてみよう・調べてみよう」によって、実践力が付く内容である。 ・P.80～82の「6つの基礎食品群と食品群別摂取量のめやす」が、一日分の献立を作成しやすい工夫となっている。 ・P.92図2は献立と食品群の関係が分かりやすくまとめられており、食生活の振り返りや課題の発見につなげられる。 ・写真が多く、献立作成は組み合わせやすい構成である。 ・食物領域では、実習のページは書き込み欄が多い設定である。 (3)・キーワードチェックの記載位置が統一されている。 ・背面からも探ることができる工夫がされている。 (4)地域性への配慮は適切である。	(1)・大きく「ABCD」と記載があり、全体の流れが分かる。 (2)・章の区切りで「振り返り」があり、ポイントを見直すことができ、課題に向かって取り組める配慮がある。 ・各領域の「学習のまとめ」では、(はい、いいえ)で答えやすい表現である。 ・「生活に生かそう」は、自己の課題を具体的に書き込める工夫をしていることで、前向きに取り組める配慮がある。 ・課題発見・解決に向けた資料が盛り込まれており、実践例も多く充実している。 (3)・背表紙が技術と同色の緑色である。 ・教科書の中は落ち着いた色合いである。 (4)・P.271～272は、伝統文化を受け継ぎ、生活に生かすということで、日本の良いものが美しく写真で盛り込まれている。 ・和食や食文化・食生活と環境など、地域性や伝統文化を重んじた配慮となっている。
5重点調査項目 (1)ガイダンスと生活の課題と実践	・ガイダンスのページ数が充実している。 ・P.1～19小学校での学習や自己を振り返り、3年間で何をどのように学習していくのが示されている。 ・「自分ができること」、「できないこと」が明確となる内容が設けてあり、生活全般を見つめ直すきっかけとなる内容である。 ・P14問題解決する道筋が分かりやすくまとめられており、P252の課題設定や実践へと続いている。	・ガイダンスで使う部分は自己の言葉で書くような設定である。 ・章ごとに自立度チェックがあり、振り返りができる。 ・生活の課題と実践は、領域の最後に配置されており、例が具体的である。	・ガイダンスのページ数が少ない。 ・振り返りの情報が簡素にまとめられている。 ・生活の課題と実践が巻末にまとめられており、具体的な課題例が多い。
(2)安全への配慮	・災害に対する意識する問いかけによって、関心もてる表記になっている。 ・興味本位の学習ではなく、安全を常に意識させ、目的意識をもたせた内容と構成である。 ・衛生と安全についてまとめられている。 ・防災マークの掲載など、分かりやすく工夫されている。	・安全についての取り扱いは、領域ごとにポイントを絞った表示である。 ・調理の安全については1ページを割いて、注意をまとめてある。	・食品表示・食物アレルギー・食中毒など食の安全面を見やすく取り上げている。 ・針やはさみの安全など、衣生活においても、取り扱いの注意点の表示がある。 ・P.268～270に「安全と防災」がまとまっている。 ・マークを活用し、必要なところに安全を促す記事が載せられている。